

活動名：第13回福島空港公園杯フットサル大会

日程：令和元年11月16日（土）～17日（日）

会場：福島空港公園 緑のスポーツエリア

参加：T2シルバー 8名（5年生：7名、3年生：1名）

帯同：佐久間（貝和）

報告：佐久間

結果：14位（15チーム参加）

予選リーグ

- 0-13 桜 SSS
- 2-8 ブレイブ守山
- 0-8 川俣 SSS

フレンドリートーナメント

- 0-1 FC Allez L100 ブルー
- 1-2 FC Allez L100 ブルー
- 1-5 常葉 SSS

私が帯同した第13回福島空港公園杯フットサル大会について報告します。

まずは、アーレ同士の試合の中で怪我をしてしまった選手が、一刻も早く回復し、一緒にサッカーができるようになることを願っております。

2日間を通しての結果は厳しく、一勝もすることができませんでした。

試合を通して、課題が見つかったと同時に、選手たちは一人ひとりが「やりきった」という実感を持つ場面もありました。

「感動するプレー」

チーム全体の今大会でのテーマは「感動するプレー」でした。「感動するプレー」をするためにも「全員で走り、全員で攻めて、全員で守るフットサル」を目指して、一試合一試合に臨みました。

「止める。走る。蹴る。」

サッカーにおいて最も大切となる基礎は、「止める。走る。蹴る。」ができるということです。「全員で走り、全員で攻めて、全員で守るフットサル」をするためにも、この基礎を一人ひとりができることが必要となります。選手達には、アップのパス&ゴールから、パスは思いやりをもって出すこと、パスを出したら走ること、トラップは次のプレーがしやすいようにボールをおさめることを、意識するように伝えました。選手達は、

アップの中では丁寧にこれらのことができていました。しかし、試合中の流れの中では、まだまだ安定してプレーすることは難しかったです。日頃の練習から常に意識してプレーをし続け、意識せず、自然とプレーできるようになるまでボールに触ることが大切です。「止める。走る。蹴る。」の基礎は、中学校・高校とサッカーを続けていくためにも、自分自身のサッカーの土台となるため、これからの練習でも身につけられるようにしていきたいです。

「我慢」

ほとんどの試合では、相手にボールを持たれ、守りにまわる時間が多くなりました。ディフェンスをするにあたり、一対一の場面で相手に自由にプレーをさせると、直接失点につながるが多くなります。そのため、まずは相手がボールを持ったら必ず一人がプレッシャーをかける。そして、一対一では、一発で飛び込んだり、足を出したりするのではなく、我慢して相手について行く。そうすることで相手に自由にプレーさせず、ボールを奪い切るディフェンスをするように伝えました。実際に、選手達は軽いディフェンスにならないように、我慢して相手について行き、ボールを奪い切ることもできていました。しかし、一試合を通して走り続けることは難しく、相手に寄せ切れなかったり、ディフェンスに戻り切れなかったりしました。やはり、一試合を通して走り切るだけの体力、そして、気持ちが必要だと感じました。

「選手達に伝えたこと」

最後のミーティングで、選手達にはプレーに関して3つのことを伝えました。

1つ目は、「シュート」です。自分のシュートレンジを意識してシュートを打つこと、そして、キーパーとの一対一の場面では、駆け引きをすること。しっかりと一点を取り切るためのシュートを打てるようになる。

2つ目は、「適当なプレーはしない」です。マイボールは丁寧に扱い、できるだけマイボールの時間を長くする。そのために、ただ蹴ってしまうのではなく、ボールをキープしたり、パスをしっかりとつないだりすることができるようになる。

3つ目は、「体力」です。「全員で走り、全員で攻めて、全員で守るフットサル」を体現するためにも、一試合を走り切るだけの体力をつけよう。

これら3つは、特別に難しいことはありません。普段の練習に全力で取り組むことから身につけることができます。

「やりきった」

試合を通して結果や内容は厳しかったものの、選手達はそれぞれに「やりきった」と感じた場面があったと思います。ゴールを決めた選手は「初めて公式戦でゴールを決めた。」と嬉しそうに話しました。また、ボールを必死に追いかけ、肩で息をするほど走

りきった選手もいました。それぞれに「やりきった」部分を自信にして欲しいです。

「成長」

プレー以外の場面に選手達の成長を感じました。それは、アップを自分達で始めたり、会場の準備や片付けを自分達から手伝ったりしていました。段々と自分で考えて、行動することができるようになってきました。また、最後に参加賞を分けている時に、選手達は「コーチもどうぞ。」と言ってくれました。選手達がこのような声をかけてくれたのは、初めてでした。これらのことは、選手達が自主的に行動できるようになったり、周囲を見て考えながら行動したりできるようになってきたのだと思います。このように、サッカーだけではなく、人としても成長して行ってほしいと思います。

今大会を通して、私自身も選手達以上に、コーチとして成長していかなければいけないと強く感じました。

最後になりますが、各チームの保護者、コーチ、大会運営の（財）県都市公園・緑化協会 空港公園関係者の皆様、2日間有難うございました。

今後共、FC Allez へのご理解、ご協力の程、宜しくお願い致します。

コーチ：佐久間







